



登米市青年団  
連絡協議会会長  
佐々木友隆さん

## 人のつながりは貴重な財産

私は28歳の時に、南方町青年会に入会。当時は、自宅と職場の往復で、日常に物足りなさを感じていました。そんなときに、知り合いに声を掛けられ、現在に至っています。

青年会活動は「田舎くさい」「面倒くさい」など、若い世代によく印象がないと思いますが、実際はそうではありません。事業を終えた後の達成感、最高仲間と、モノやコトを成し遂げた後のお酒は本当においしいですよ。また、同年代

だけではなく、幅広い年代とつながれるのがこの活動の魅力です。何事も、実際にやってみなければ分かりません。

もしやり直せるなら20歳の自分に「早くから人の中に出て、いろんな人と付き合え。それが何よりの財産になる」と言いたいですね。人とのつながりは、お金では買えない貴重な宝物です。

古里を盛り上げるのに必要なのは若い力。それぞれの立場で頑張りましょう。

## 二十歳を迎えて Toward twenty years old



田村光貴さん  
(東和町錦織6区出身)

高校中退後、市内土建会社に就職。現在は、福島市で放射能除染や建物解体の会社に勤務しています。みんなより少し早く、世の中の大変さを勉強しました。目標はネットビジネスで起業すること。お金貯めて頑張ります。



氏家京香さん  
(采山町瀬ヶ崎)

仙台市内の大学に通っています。一人暮らしをして、家族のありがたみが分かりました。将来は、塾講師か公務員になりたいと考えています。誰かのために役に立てる仕事をし、誰かに頼られる大人になりたいです。



星陽花里さん  
(迫町板橋)

成人式を迎え、勉強も私生活も全てに責任を持った行動を取らなければと思っています。現在、横浜市の看護専門学校で、看護師になるための勉強をしています。看護師をしっかり伝えられる大人になりたいと思います。



浅野翔さん  
(南方町狼掛)

高卒後、アパレル関係の会社に就職しました。現在は、型枠大工をしています。お金を貯めて、またアパレル関係の職に就きたいと考えています。自分の個性を忘れず、やる時はやる、信念を持った大人になりたい。



Oikawa Saki  
及川早紀さん  
米山町朝来

古里を帰って来たい  
まちにしたい

私は米山町で育ちました。家族、友人や地域の皆さんに見守られ、豊かな自然とおいしい大地の恵みで、ここまで育ちました。たくさんの人たちの愛情、登米市の自然が今の私を形成しています。

二十歳の節目を迎えた今、大切な人がいて、ありのまままで過ごせる登米市に「ありがとう」と感謝したいです。

私は、昨年から登米市職員として働いています。自然豊かな古里が好きで、ここから離れることを一度も考えた事はありません。

現在、下水道課に勤務してい

ます。さまざまな法律や専門用語など覚えることがたくさんあり、毎日が勉強です。未熟な部分もありますが、これからは、責任ある大人としての自覚を持ち、住みよいまちづくりに貢献していきたいと考えています。

私の目標は、登米市を「帰って来たくなるまち」にすること。同級生でも、進学や就職で市内にいない人は少ないと思います。多くの若い世代が戻り、生活していくまちにしていきたいです。

大好きな登米市がより活性化するように、市職員として、登米市に住む大人として、微力ながら尽力していきたいと思っています。

## はたちの主張

新成人を代表し2人の「はたちの主張」(抜粋)を紹介します。

阿部航也さん  
津山町横山7区



Abe Koya

人生の区切りともいえる今日を迎えられたのは、たくさんの人の支えがあったからです。私は周りからの支えを忘れずに、今度は支えられるのではなく、支えていく立場にならなくてはならないと考えるようになりまし

私は大学に通って2年になります。大学では、本当に周りからの支えというものを実感させられます。一人暮らしをし、自炊することで、毎朝母や祖母がどれだけ大変だったのか、アルバイトをすることで、どれだけ父や祖父が身を削っていたのか、毎日身に染みて生活しています。

本当に感謝ばかりです。私はやりたいことが明確にならないまま、社会福祉を学びたいと大学に進みました。昨年の夏、一関市の社会福祉に関する調査を手伝いました。そこで、社会福祉協議会の皆さんと行動を共にし、この仕事かしたいと思つたのです。今は、社会福祉協議会で福祉活動専門員として、地域に根を下ろし、生活、福祉課題の解決に向けて、多くの人の役に立てればと思つています。

そのために、大学で勉学に励み、社会福祉士の資格を取得し、地域や社会に貢献できるようがんばりたいと思います。

昔も今も変わらない  
基本は顔を合わせること

今年の新成人数は、全国で123万人。昨年より2万人増えましたが、総人口に占める新成人の割合は0.97割と1割を割っています。

新成人は少子化世代で、核家族の増加、個人主義の風潮が高まった中で育つています。このような状況から、地域付き合いが激減。一昔前であれば、隣近所は家族同然でしたが、そのような付き合いが乏しくなっています。

また、この世代はデジタルネイティブ世代とも言われています。デジタルネイティブとは、物心ついた頃から携帯電話、ホームページやインターネットによる検索サービスに触れてきたことを言います。デジタルネイティブ世代にとつて、他人とのコミュニケーションは「ケータイ」で取ることが珍しくありません。親世代以上から見れば、他人との会話がケータイということに違和感を覚えます。

また、ゆとり、さとり世代とも呼ばれ、バリバリ働くことが美德だった親世代に対し、豊かな時代に生まれた新成人たちの多くはハンタリー

を美德とはしていません。

しかし、人付き合いが嫌いなわけではありません。ケータイを使って、多くの仲間とつながっています。仕事に対しても、人の役に立ったり、誰かに必要とされたりすることに喜びを感じています。基本的にはみんなと変わりません。手段と価値観が違うだけなのです。

新成人は、将来の登米市を担う宝。彼らの力なくして、登米市は持続的に発展することはできません。すでに大人になっている世代が、この世代を受け入れたり、入ってきやすい環境を整えたりすることが必要です。しかし、片方に合わせるだけでは、ひずみが生じてうまくことは運びません。彼らも大人世代に歩み寄る必要があります。

人付き合いの基本は「フェイス・トゥ・フェイス」。どんなに情報技術が進化しデジタルになっても、使っている人間はアナログです。顔と顔を合わせて話をすることが一番のコミュニケーション。

成人式で同級生と顔を合わせ、楽しい時間を過ごした彼らも分かったはず。フェイス・トゥ・フェイス」が新成人成長のキーワードです。

